

## 袋掛け越冬完熟みかん「ふる一つ物語」の販売が始まりました

▼発生年月日：2024/1/23

▼執筆者名：川田 亮太

▼センター名：西讃農業改良普及センター

▼部門分類：果樹

▼活動分類：流通販売

▼公開：公開

▼備考：

▼本文

1) 令和5年産の温州みかんについては、全体的に表年の園地が多く初期の着果量も多かったことから、例年よりも果実の肥大が抑制されて小玉傾向となりましたが、9月以降の乾燥により糖度が上がり、平年よりも糖度が高い仕上がりとなりました。

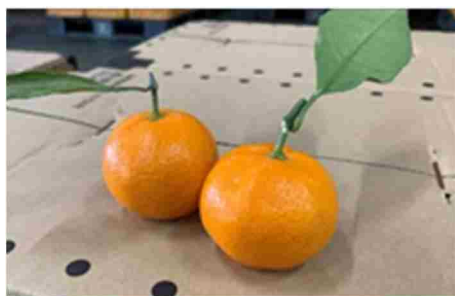
2) 三豊市仁尾町を中心とした生産者で組織する「マル曾」みかん部会では、袋掛け越冬完熟みかん「ふる一つ物語」の栽培に取り組んでおり、今年は1月23日から出荷が始まり、2月3日頃までに約20tが東京や県内の市場に出荷されます。

3) 袋掛け越冬完熟みかんは、通常11～12月に収穫される早生みかんに1個ずつ丁寧に袋を掛け、1月まで樹上で完熟させたもので、普通の早生みかんよりも糖度が1～2度高く、内袋（じょうのう）も薄いことから、とろけるような食感が楽しめます。

葉付きで収穫後、糖度13度以上で外観品質が優れたものを専用の化粧袋に1個ずつ包んで出荷しており、通常の温州みかんの4～5倍の高値で取引されています。

4) 三豊みかん共同撰果場では、この「ふる一つ物語」と晩生の「寿太郎温州」で令和5年産の温州みかんの出荷・販売は終了し、今後は「せとか」、「不知火」等の中晩柑類の出荷が最盛期となります。

5) 普及センターでは、令和6年産に向けて2月中旬からカンキツ剪定講習会を開催する予定であり、今後も高品質なカンキツ生産を支援します。



葉付きで収穫された早生みかん 千両箱のような箱に詰められて出荷 出荷用の袋で個包装して出荷